個別の保健事業の現状及び検討事項

資料６

（1）特定健康診査事業および特定保健指導事業		
項目	**検討項目**	**具体的な内容**
特定健康診査事業 **p.58**	結果説明会の活用	参加者が少なく費用対効果が得にくいため廃止を検討（廃止時期をR9年度かR10年度とするか）。 ※⑦ポピュレーションアプローチ事業の基準にも関連。
特定保健指導事業 **p.60**	未利用者への利用勧奨・利用しやすい環境整備	実施率が目標（充足値）を超えているため、目標値の上方修正を検討。
（2）糖尿病性腎症重症化予防事業		
項目	**検討項目**	**具体的な内容**
糖尿病性腎症重症化予防事業 **ｐ.69**	―	透析導入患者数が多いことから、糖尿病性腎症重症化予防事業を令和９年度より開始予定。選定基準やフローについては、令和７年度より開始した糖尿病性腎症重症化予防事業検討委員会で検討をしている。
（3）重複・多剤投与者対策事業		
項目	**検討項目**	**具体的な内容**
重複・多剤投与者対策事業 **p.72**	―	令和６年度より重複服用対象者のデータが大阪府国民健康保険団体連合会よりデータ提供開始となったため、抽出条件変更となりました。 がん、精神患者及び特定の診療科（整形外科、精神科、眼科、耳鼻科、歯科）を除くという条件は削除 「内服薬と外用薬」を対象としていたが、「内服薬のみ」
（4）ポピュレーションアプローチ事業（介護予防・一体的実施）		
項目	**検討項目**	**具体的な内容**
ポピュレーションアプローチ事業（介護予防） **p.76**	アウトプット・アウトカム指標と目的の変更	・アウトプット「介護予防教室（口腔）」を「介護予防教室」に変更検討。口腔だけでなく運動、認知症等のあらゆるテーマで介護予防教室を開催しているため。 ・アウトカム「要支援・要介護者数の増加抑制」を「介護予防教室の参加者数」へ変更検討。高齢者数が増加しており、今後も減少の兆しがない状況で要介護・要支援者数の増加抑制という目標自体が不可能なため。 ・アウトプットの変更に伴い、目的を「適切な介護予防の知識を身につける高齢者が増える」に変更。 R6年度　介護予防教室83回　1477人参加 R7年度　介護予防教室69回　1668人参加
ポピュレーションアプローチ事業（一体的実施） **p.77**	実施方法の変更に伴うアウトカム指標・目的の変更	・アウトカムの「要支援・要介護者数の増加抑制」を「フレイル予防に対する理解度」に変更。 アンケート回答者のうち、「フレイルの理解が深まったか？」に「はい」と回答したものが84.6% ・目的を「フレイル予防の正しい知識を身につける高齢者が増える」に変更。 R5年度　36人　R6年度　307人　R7年度　285人
（5）がん検診事業及びポピュレーション事業		
項目	**検討項目**	**具体的な内容**
がん検診事業及びポピュレーションアプローチ事業 **p.79、80**	がん検診のアウトカム指標の変更	・アウトカムの「各種がん検診の受診率向上」から「各種がん検診の受診率（大阪府平均）」に変更。 胃がん：　R4年度　1.9　　R5年度　1.7　R6年度　1.6（府平均3.2　42位） 子宮がん：R4年度　9.8　　R5年度　8.3　R6年度　7.9（府平均12.9　43位） 大腸がん：R4年度　6.7　　R5年度　6.3　R6年度　6.1（府平均7.0　35位） 乳がん：　R4年度　6.1　　R5年度　6.1　R6年度　6.3（府平均10.8　43位） 肺がん：　R4年度　11.8　R5年度　11.6　R6年度　11.2（府平均7.0　９位） ※R6年度の受診率及び府平均、順位は速報値
	集団健診時の他のがん検診同時実施のアウトプット指標の変更	・R5～R8年度にかけての実施方法変更（乳がん・子宮がん同時実施など枠数拡大）に伴う評価指標の検討。 R5年度~R７年度は集団検診時の乳がん検診同時実施を２回、令和８年度は集団検診時の乳がん・子宮がん検診同時実施を２回 アウトプットを「集団健診時のがん検診同時実施回数：２回以上」に変更。

（6）ジェネリック医薬品普及事業		
項目	**検討項目**	**具体的な内容**
ジェネリック医薬品普及事業 **p.82**	―	ジェネリック医薬品の普及率は、R6年度84.7%、R7年度87.8％で目標の80％以上達成のため、取組み等の変更なし
（7）ポピュレーションアプローチ事業（歯科健診）		
項目	**検討項目**	**具体的な内容**
ポピュレーションアプローチ（歯科健診）事業 **p.84**	―	30、40、50、60、70歳の対象者に加え、令和６年度に20歳にも対象拡充して取組み推進中。